

気仙沼ボランティアレポート(1)

2011年5月19日

このたび、被災地へのボランティア活動の先発隊として、気仙沼（本吉町）に行ってまいりましたが、その活動報告をいたします。

今回の活動の目的は、「とにかく被災地の現状を把握しよう」「柔道整復師や鍼灸師等が被災地において何ができるのかを把握しよう」ということが大きな目的でした。

5月15日午後東京を出発し、その日はそのまま宿泊。

5月16日は現地の責任者の方々との意見交換、気仙沼市内の現状を視察。

5月17日は避難所でボランティア活動（鍼灸やマッサージ等）。



避難所近辺の状況。道路は波打ち、多くの住宅が波にさらわれている。

被災地の状況は復興には程遠く、瓦礫の処理もまだまだという状況です。

被災地でのボランティア活動については、活動時間が主に昼間であったためか、マッサージや針を希望される方は、ほとんどが高齢者の方々でした。避難所の窮屈は生活もあつてか、皆さん一様に「体が楽になった」とおっしゃっていました。



今回のボランティア活動の拠点となっている本吉病院。



1階の一部は津波の影響で壊滅状態になっている。



今回の避難所近辺の状況。高台にある住宅とその下にある住宅が対照的。



本吉町から気仙沼駅へ向かう国道沿いの様子。海岸側の建物は崩壊しているが国道を挟んだ向かい側の建物はほとんど被害を受けていない様子がわかる。わずかな距離、段差が明暗を分けている。



打ち上げられた漁船。



倒壊した道路。



避難所脇でのボランティア活動。今回3箇所の避難所を見たが、そのうち2箇所が寺であった。



避難所（寺）でのボランティア活動。



理容師のボランティアの方々。その他フットマッサージも行われていた。

たまたま日向ぼっこをしていた高齢者の方（男性）と少し話をしましたが、今何が必要ですかと聞きましたところ、「人と話したい。」とおっしゃっていたのが印象的でした。

今後も支援を継続していきたいと思いますが、体のケアとともに、心のケアも必要になっていくと思います。

次回の活動は、5月29日～31日の予定です。ボランティアへご協力いただける方をお待ちしております。

（文責：佐久山）